

仏の願い

平成 26 年 西雲寺だより 秋号 (38 号)



報恩講のご案内

10月17日(金)～19日(日)

17日・・・・・・・・ お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

18日 お日中(10:00～) お逮夜(1:45～) お初夜(7:00～)
└─御伝抄拝読 └─御伝抄拝読

19日 お日中(9:30～)

法話 美浜 南 真琴師 (18日～)

18日はバスが出ますのでご利用下さい。

放送会館前発(8:50)～東別院前～工大温泉前～西安居經由
坪谷発(9:00)

常森発(9:00)～鮎川～小丹生經由

おさそい合わせの上 多数ご参詣下さい



報恩講によせて

猛暑と異常気象の夏も過ぎ去り、田んぼの取り入れも終わり、季節は足早に秋を感じさせる頃となりました。秋を迎えるに当り、過ごしてきた一年を振り返り、今年も私たちのために、本願念仏のみ教えをお示し下さった宗祖親鸞聖人の九十年のご恩徳を偲び、報恩講を勤めさせていただく時節となりました。

今年春に宗祖親鸞聖人の七百五十回忌の御遠忌を勤めさせていただき、記念すべき年となりましたが、改めてそのご生涯をただかせていただきたいと思います。

親鸞聖人は弘長二年(二六二年)十一月二十八日に九十歳のご生涯を終えられお浄土に還られました。真宗の各御本山ではそのご苦勞を偲び、十一月二十一日から二十八日まで七昼夜にわたり御正忌報恩講が、とまり全国各地より御同行御同朋が参集し、そのお徳を偲んでお念仏申させていただくのです。(本願寺派と高田派ではご命日を太陽曆に換算して一月九日から十六日までつとめられます)

私たちの先祖の方たちは、親鸞聖人をご開山さまとして心からお敬いし、大切に報恩講をつとめてきたのです。お念仏申して苦勞多き人生を歩まれた先祖の方々は「聖人のみ教えを抛り所に人生を歩むように」と私たちに願われているのです。報恩講は先祖から綿々と伝えられてきた仏法を、子や孫に相続していく大切な仏事なのです。

そのためにはまず私が聴聞の座に座らせていただきましょう。

宗祖としての親鸞聖人に出会う

親鸞聖人という方は私にとってどのような方でしょうか。親鸞聖人という呼び方では私との関係がはつきりしないように思われます。

親鸞聖人は、血の出るような聖道自力の行と学問に二十年間励み、仏になる道を求められましたが、煩惱をかかえた身は如何ともし難く、比叡の山を下り、吉水の法然上人のもとを訪ね、そこで「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」と諄々と説く法然上人の説法に弥陀の本願の声を聞き、「ただ念仏一つ」と頭が下がったのです。聖人は「雑行を棄てて本願に帰す」と記しておられます。ここに自力の計いや分別に生きるのではなく、お念仏申して本願に生きる親鸞聖人が誕生したのです。そして聖人は九十年のご一生をかけてご本願のまことを明らかにして私たち凡夫にお示し下さったのです。お同行たちは、このような聖人のご苦勞を、我々愚かな凡夫のためにご本願のまことを聞き開いて下さり、浄土真宗という一宗を開いて下さった方「宗祖親鸞聖人」として、お敬いしてきたのです。この私のご本願に出会い、お念仏申す身になつたところから、私にとって親鸞聖人を「宗祖聖人」「御開山聖人」としてお敬いさせていただくのです。

親鸞聖人は『歎異抄』のなかで、ご本願にたすけられたよろこびを

弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれ

ば、ひとえに親鸞一人がためなりけり、さればそくばくの業をもちける身に、ありけるをたすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ

と述べられておりますが、私たちも親鸞聖人のご苦勞を、私一人をたすけんがためと、ただかせていただきたいと思います。

帰敬のこころ

私たちがご本願をお聞かせいただきお念仏申していくとき、ご本願に帰し、ご本願をお敬いしていくという帰敬のこころが起らねばなりません。おかみそりを受けることを「帰敬式」といいますが、仏法に帰し、それを敬っていく、それが仏弟子になるということです。このように帰敬のこころというのが仏法を生きる最も大切なこころなのです。

しかし私たちはいくら仏法を聞かせていただいても帰敬のこころは起こりません。何か権威のあるものか、力のあるもの、偉い人、感動を与えてくれるようなものには少々頭の下がることありますが、私の外にあるのではなく、私のいのちと一つになつて私を生かしているようなご本願には頭が下がります。それはご本願が「迷いの凡夫よ、苦悩の凡夫よ、我が名を称えて、我が国に生まれてくれ」といくら呼んで下さつても、迷いの凡夫、苦悩の凡夫が我身のこととは気がつかないのです。お聞かせいただき、迷いの凡夫、苦悩の凡夫とはこの私のことでしたと自覚ができればそこには頭が下がり、帰敬のこころが起るのではないのでしょうか。私たちが長い間忘れてい

た帰敬のこころを呼び起して下さるのが、本願に帰し念仏申すということです。この帰敬のこころこそ私を生かshめていく最も尊いこころではないでしょうか。

「ご開山聖人、宗祖聖人」

宗門のある大学の先生が、自分の生い立ちや祖父のことについて話されたのを聞き、私はその話に大変感銘を受けました。先生は京都の西陣の生まれですが、父親は滋賀県の農家の生まれで京都へ出てこられ西陣で織屋を始められたようです。西陣での仕事はうまくいっていましたが早くして病気で亡くなり、母親も病弱であったようです。ですから先生の幼い頃は祖父が京都へ迎えに来ては田舎へ連れて帰り育てられたようです。祖父の家は貧しい農家であつたようですが、立派な仏壇があり、朝夕にはおつとめがあり、必ず横に座らせられたそうです。足が痛くてもじもじしていると長いキセルで頭をゴツンとやられたそうです。また先生自身も幼い頃病弱であつたため不憫と思つたのか近くの寺にお説教がある時には必ず連れられてお参りしたそうです。そのような素朴で厳格な念仏者であつた祖父は、親鸞聖人を親鸞聖人と呼んだことは一度もなかったということです。必ず「ご開山聖人、宗祖聖人」とお呼びしていたようです。尊い人、お敬いする人に対して固有名詞で親鸞聖人とお呼びすることは大変失礼なことと思つておられたようです。昔の念仏者は親鸞聖人を本當に身近に感じ、そして心からお敬いしておられたことが伺えます。

「マルクスさんは聞法が足らん」

先生には二十数名のいとこがいて、夏休みになるとおじいさんの家にお世話になつたようです。そのいとこの中で秀才で京都大学の学生がおられたようです。その大学生はその時代のならいでマルクス主義にかぶれたようです。ある日、大きな声が聞こえるので行つてみるとおじいさんと口論になつたようです。口論といつても一方的に立て板に水でおじいさんにむかつて話をふつかけていたようです。多分おじいさんが日頃お内仏を大切にしてお勤めをしていることにかみついたようです。おじいさんはただ目を白黒して聞いていただけですが、大学生がとうとうとしゃべりまくつた後で、おじいさんが一言、「お前の言いたいのはそれだけか」とこう言つたのです。「お前はいろいろ言つてくれたけど、残念ながらお前の考えは間違つたと」と、「もしお前の考えが正しければ、御開山聖人がおつしやつていゝるはずだ」と、「そういうことは、わしはいろんな先生から御開山聖人の話を聞いたけども、御開山聖人がそういうことをおつしやつたということは一度も聞いたことがない。だからお前の考えは間違つてゐる」と言つたそうです。理論的には間違つてゐるのかも知れませんが、すばらしい答えだと思ひます。またある日、そのいとこの大学生がおじいさんに反論して、話がマルクスのことになつたようです。おじいさんはマルクスのことは全く知りません。ただじつと聞いていただけですが、「そのマルクスという人はどういふ人か知らんが、その人は間違つてゐる。もしマルクスという人が正しければ、マルクスという人が言われたようなことは御開山聖人もおつしやつてゐるはずだ。そういうことをおつしやつてないといふことはマルクスという人が間違つてゐる証拠だ」と。そして最後に「マルクスさんはちよつと聞法が足らん。だからマルクスさんにそう言つとけ」といわれたそうです。これには秀才の大学生も参つてしまつたそうです。おじいさんの受け答えのなかに信心によつて深く結ばれた親鸞聖人への尊敬の念が感じられてなりません。

「報恩講の精進料理」

土徳という言葉があります。お念仏の信心のあつた土地の風土をさして、そう言われてきました。

そのお念仏の風土を代表するのが秋から冬にかけてつとまる報恩講の精進料理です。昔の報恩講は親戚や隣近所を呼んで賑やかにつとまり、おつとめの後にお説教があり、その後は精進料理が出て食事をよばれながら宗祖親鸞聖人のお徳を偲んだのです。

精進料理の献立は決まつたものでした。お平の煮物の盛りつけにひとつの形があります。ふたをとるといちばん上にシイタケがのつていて、その上にニンジンとゴボウ、ヤマイモがならび、底に三角形のアブラアゲが敷かれています。その形に意味があるのです。シイタケは笠、ゴボウは杖、アラアゲは袈裟、ヤマイモは石を枕にやすまれた石、そしてニンジンとゴボウは手足のアカギレの血、関東を教化された親鸞聖人のご苦勞の姿です。昔およばれした報恩講料理がなつかしく思われます。

(住職)

♪ほんごさんのコーラス♪



報恩講のなか日、18日の大速夜の締めくくりとして、毎年盛り上げてく
ださっているのがコーラスです。メンバーは武周町のご婦人方で、20年ほ
どの歴史があります。仏教歌を中心に選曲し、毎年5曲ほど披露しています。
武周も過疎の集落なので若い人が増えることもなく、メンバーは高齢化し
てきました。「声が出なくなってきた」と自信もなくなってきました…。皆、
仕事をしておられるので忙しく、なかなか練習できません。

しかし、ここ数年、強力な助っ人が現われました！それは、お参りしてい
るみなさんです。歌詞カードをお御堂中に配ったら、お参りの方々も一緒
歌ってくださるようになったのです！毎年同じ曲を歌い続けることで、覚え
て下さった方もおられるようで、年々歌声が大きくなってきました。

音楽ホールなどのコンサートなら、演奏を静かに聞くのがエチケットなの
でしょうが、西雲寺のコーラスは違います。みんなで歌うんです。

私もコーラスのメンバーの一員として歌
っているのですが、目の前で一生懸命歌っ
て下さる皆さんの姿を見ると、不思議
と緊張がとけて、歌うことが「楽しい」と
思えてきます。みんなで歌うことで、お御
堂が同じ空気で包まれる気がします。

普段、お寺に来てもらう機会が少ないメ
ンバーの方々にも、この一体感を味わって
いただけたら一石二鳥です！コーラスを通
して、私たちが西雲寺門徒だということ、
同じ道を歩く仲間なんだと感じられたら、
こんなに嬉しいことはありません。

みなさん、今年の報恩講も、お御堂で一
緒に歌いましょう！
(美和子)



素朴な疑問 しっけたお線香 が燃えない…

「うちの仏間は湿気が多くて、お線香が
燃えないんです～」そういうときは、こ
れ！「井げた組み」を試みましょう。
火をつけずにお線香を並べ、その上に火
を付けたお線香を乗せます。あ～らピッ
クリ！最後までキレイに燃えますよ♪
※お沈香をかけすぎないように。
※よい香りのものを探しましょう。

慧

法名に 育てられる

<読み方>…エ
<意味>…真実を見抜く仏の眼を意
味します。例えば、戦争中は西洋人がみ
な敵に見えたといいますが、真実はどう
だったのでしょうか。例えば、自分は正し
いと言い張ったとき、本当にそうだった
のでしょうか。「慧」という名は、私の眼
の濁りを教え、仏の眼に導かれて欲しい
と私に呼びかけているのです。

山門揭示板

ど小たい
人生経験巨
つんでも
生死の問題には
歯が立たない

私たちは今日まで、いろんな人生経験を重ねて生きてきました。若い頃は一生懸命働いて結婚もし、子供を育て、勉強も仕込んできました。その間、大切な家族を失くしたり、病気になったり、仕事がうまくいかなくなったりと思いがけない事に出くわしかもしれません。そして年をとり、孫が結婚するまでは長生きしたいと頑張っているのです。しかしながら一生懸命生きてきたにもかかわらず、そこに私たちは本当の喜びを感じることもなく何かむなしさを感じているのではないのでしょうか。仏教ではこのような私たちのいのちの有り方を「生死（しよ うじ）」といいます。「迷いをへ巡る」という意味で「生死流転」ともいいます。いのち終つてもこれでおしまいでなく永遠にこのような迷いをくり返すというのです。これは尺取り虫が丸い輪の上に乗せられると、いつまでも回り続ける姿に例えられます。これは私たちに本当の智慧が無いから、求めながらも、本当に求めているのが何か分からず迷っている姿なのです。（住職）

『正信偈』に先輩の感動あり

信楽受持甚以難 難中之難無過斯
弥陀仏本願念仏 邪見憍慢悪衆生

読み方

弥陀仏の本願念仏は 邪見憍慢の悪衆生、信楽受持すること、甚だもって難し。難の中の難、斯に過ぎたるはなし。

意味

ひと声の念仏ですら私の力ではなく、たくさんの方のお陰だと喜ぶことは、自分中心の考え、自分の力を振り絞ったとしても、その喜びを継続することは、難の中の難であり、これ以上難しいことはありません。



★ 邪見憍慢の悪衆生って、どこにいるんやろう？ 刑務所の中かな？

★ 先人のお陰だと喜ぶことってそんなに難しいの？ 難の中の難だとしたら、どうやったら喜び続けられるの？



福島の子供たちが 宿泊しました



永代経が つとまりました



寄稿

法鏡
 あかしの清水ぞうか
 視力がおちそのぞうか
 あかぬ屋さんん
 どうぞいとし物に腰あす
 老鬼そのまの顔
 鏡に映り身雲あす
 心の中もすすまわぬ思ひ
 新り思考や感情か
 にどがまを聲
 こんながが許されて
 真実の命に過りせ賜う
 大意慈心のかたけけなまふ
 南無阿弥陀佛

西列所町 釈真光妙映

発行
 真宗仏光寺派 専念山 西雲寺
 住職 護城一寿
 筆頭総代 吉川芳弘
 編集責任者 護城一哉
 〒910-3523 福井市武周町5-2
 電話 0776-97-2138
 メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
 ホームページ http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！
 お寺から郵送いたします。どうぞ
 ご遠慮なくお申し出下さい。

みなさんの声 大募集！
 原稿や作品はもちろん、ご意見、
 ご感想など、どしどしお寄せ下さい。
 郵送でもメールでも構いません。お
 待ちしております。